

日本性科学会 ニュース

第38巻第3号

令和元年(2019年) 9月

発行人: 大川 玲子 印刷所: 頼 絢 文 社

第39回日本性科学会学術集会 / 第20回日本性科学連合性科学セミナー

会 場: 鹿児島市医師会館 (鹿児島市加治屋町3-10)

第1会場 大会議室 第2会場 中会議室

*鹿児島中央駅近くに鹿児島県医師会館がございます。お間違えの無いようご注意ください。

学術集会会長: 医療法人玉昌会高田病院泌尿器科科长 内田洋介

学術集会テーマ: 新時代の性科学を模索する～明治維新ゆかりの地にて～

10月5日(土)

第1会場 9:30～12:10 第11回GID学会エキスパート研修会(主催:GID学会)

第2会場 10:00～12:00 SEE (Sexuality Education & Empowerment) 主催

対話型ワークショップ

「こんなとき、どうする? どうみる? 性にまつわるさまざまなトラブル
～学校現場での被害・加害を中心に」

第1会場 13:00～17:00 第20回JFS(日本性科学連合)性科学セミナー

「性の健康 ―平成から令和へ―」

○合同懇親会 17:45～19:45

PARTY HALL HINATA (鹿児島市東千石町3-41)

○夜の市民公開講座 TENG Night Special

「お医者さんとみんなで語る! 性の健康とマスターベーション」

20:30～22:30 PARTY HALL HINATA

10月6日(日) 第39回日本性科学会学術集会

第1会場

9:00～9:10 開会の辞

9:10～10:30 シンポジウム1「HPVワクチンのこれからを考える」

10:40～12:00 シンポジウム2「歴史の中のLGBT」

13:00～14:55 シンポジウム3「セックスワーク:論じられてこなかった視点とは何か」

15:05～15:55 特別講演「生と性と死を考える」～お坊さんが行う中学校性教育授業を通して～

16:00～17:00 ユースセッション「次世代に繋ぐ性科学 ～令和の性科学を語る～」

17:00～17:10 閉会式

第2会場

10:00～11:40 一般演題



学会事務局 〒892-0824 鹿児島市堀江町5-1 医療法人玉昌会高田病院泌尿器科
ホームページ: jsss39.umin.jp

第13回 日本性科学会近畿地区研修会

テーマ: 性にかかわる支援

日時: 2020年2月2日(日) 10:00～17:00

会場: 梅田ガクトホール

URL: <https://www.kgn.or.jp/map.html>

〒530-0001 大阪市北区梅田2-6-20

パシフィックマークス西梅田14F

連絡先: TEL 06-6346-0569 FAX 06-6346-5095

E-mail info@kgn.or.jp

予定単位: 日本性科学会10単位

Vol. 38

№.
3

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

ニューハーフヘルスについて

お茶の水女子大学生生活科学部心理学科

石 丸 径一郎

今回の症例研究会では、メンタルヘルスや発達の問題を抱えながら社会適応を目指す、セックスワーク経験のあるトランス女性の症例を検討した。本稿では、トランス女性や女装者には比較的よく見られる仕事であるが、一般にはあまり知られていないニューハーフヘルスと呼ばれるセックスワーク業態について紹介する。

サービス内容

ニューハーフヘルスは、男性の体で生まれた人が、女性的な外観となった上で、男性客に対して性的サービスを提供するセックスワークである。現在の日本では、東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・那覇など大きな都市部では専門店が存在している。それ以外の地方都市においては、生まれつきの女性キャストによる一般的な風俗店に、一部ニューハーフキャストを在籍させているケースもよく見られる。膣はないため、一般的な風俗店と同様に口や手や肛門を使った非本番系のサービスとなるが、キャストのペニスを男性客の肛門に挿入する「逆アナル」と呼ばれるサービスもある。

キャスト

キャストは、女性ホルモンを投与しているニューハーフキャストと、投与していない女装子／男の娘キャストに分けられて紹介される。さらに、睾丸摘出の有無、ペニス切除の有無も表示される。造膣までしているキャストは、この業態では少ない。

法的位置づけ

風営法（風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律）では、キャバクラやバーなどの「風俗営業」については性別を特定していないが、ファッションヘルスなどの「性風俗関連特殊営業」については、異性の客に接触する役務が対象とされている。そのため、ニューハーフバーは風営法によって規制されるが、ニューハーフヘルスは（戸籍性別変更済みのキャストがいなければ）風営法によって規制されない。このためニューハーフヘルスでは、異性間のファッションヘルスでは数少ない（デリバリーではない）店舗型の店も多く存在する。

海 外

セックスワークの盛んなタイにおいては、男性として生まれたが女性として生活するカトウーイと呼ばれるトランス女性たちが、セックスワークを提供していることが有名である。オランダ・アムステルダム のセックスワーク地帯である飾り窓 (Red Light District) においても、トランス女性たちが営業している区画がある。

スティグマ

生まれつきの女性であるセックスワーカーたちとほぼ同じ内容の仕事をしており、セックスをお金で売る人としての同じようなスティグマが存在する。しかし、風営法の対象外となっていることからわかるように、十分に想定されておらず、法制度的な保護が受けられないこともある。さらに、性的マイノリティとしての差別も同時に受けるため、サポートはなおさら不十分になると言えるかもしれない。世界最大の国際人権NGOであるアムネスティ・インターナショナルは、2015年8月にセックスワーカーの人権を守るための決議を採択し、これに関連し、トランスジェンダーや男性であるセックスワーカーの人権も擁護すべきであると明言している。

前号（2019年第2号）の〔症例研究会から〕「自閉症スペクトラム障害と性別違和はどのように併存しているのかー当事者たちの「自分史」に注目してー」の著者名に誤植があり、「お茶の水女子大学生生活科学部心理学科 石丸径一郎」ではなく正しくは「お茶の水女子大学大学院 庄司悠花」でした。お詫びして訂正いたします。

第10回「世界性の健康デー」記念イベント・横浜

主婦会館クリニック産婦人科 早乙女 智子
倅生会身原病院産婦人科

2010年から始まった性の健康デー、日本性教育協会(JASE)の支援も受け、とにかく続いてきたことを感謝したいと思う。年々、性の健康に関する団体の活動を目にすることが多くなったり、性の健康をテーマにした記事もいわゆる興味本位といわれたものから質的变化を遂げたとしたら、この10年で何らかの貢献ができていたのかもしれない。

性の健康デーは、WAS (World Association for Sexual Health: 性の健康世界学会) が定めたもので、毎年20か国以上で開催されている。学会からの今年の国際テーマは、「すべての人に性教育をー Sexuality Education for All」である。今年は、メインの東京大会は柳田実行委員長に任せることになったが、第1回を担当した横浜の「Umiのいえ」の斎藤麻紀子さんとやっぱり何かしたい、ということになり、助産師の野口としのさんと3人で、こじんまりした会を9月1日に開いた。

性の健康というと多様性やマイノリティに目が向きがちであり、それはそれでとてもよいとは思いますが、その視点でいえば女性はまだまだマイノリティである。今回は、原点に立ち返って、「SEXと妊娠出産における性と生」というテーマにした。妊娠中のSEX、検診の内診について、分娩時やその後の夫婦関係についてなど、事前アンケートで頂いたことをもとに、自由に話し合った。参加者は、産科医、助

産師、社会福祉士、鍼灸師、主婦、など男性を含めて12名のこじんまりしたものだが、参加者の多様性が会の中身を重厚にした。お産の話になると、その時の傷つきや無念などの記憶が入り交り、特に個人の体験談では冗長に語られる傾向がある。しかし、それは、それだけ女性が妊娠出産のことをとてもよく覚えていて、語ることで癒すしかないということの裏返しであることを、多くの医療従事者は知らない。否、知ろうとしないし、おそらく知ることが怖いのだ。医療従事者が自分達も傷つきながら、時には理不尽なクレームを受けたりそういうことがないか怯えたりしながら仕事をしている、過労や傷つきを癒す方法を持たないのかもしれない。

パートナーからであろうと医療従事者からであろうと、屈辱的な姿勢や扱われ方は、性的な臓器の持ち主の尊厳を損ねかねない。それがセックスレスに繋がったり、自尊心を損ねたままの子育てに繋がったりしないといえるだろうか。妊娠中は生殖に必要ないからセックスはしない、胎児が優先だから性欲がなくて当たり前という考え方もあるが、セックスは生殖の意味しかないのかなど、もっと多くの方に聞きたい。また、セックスをすることが性の健康であるという押し付けにならないような配慮も同時に必要だと思われた。

第10回「世界性の健康デー」東京大会の報告

世界性の健康デー東京大会実行委員会 柳田正芳
事務局責任者

世界性の健康デー (World Sexual Health Day) を性の健康世界学会 (WAS) が提唱し、始まったのが2010年。そこから早くも10年が経った。この10年、多くの団体や個人、登壇をいただいた有識者のみなさま、スタッフとして支えて下さったみなさま、ご来場いただき一緒に盛り上げてくださったみなさまのご支援のあってこそ、東京の地で「性の健康デー」の灯を絶やさずに続けていくことができた。厚く御礼を申し上げます。

2019年の世界性の健康デー東京大会は、9月8日(日)に東京・四ツ谷の持田製薬株式会社ルークホールをお借りし、開催の運びとなった。今年は、NPO 法人ピルコン、セックスミュージアム設立準備委員会、NPO 法人aktaの各団体にブース出展をいただいたほか、ホール企画として、以下の内容の発表を行った。

◆講演「第8回青少年の性行動全国調査からみえてくるもの」

日本性教育協会が実施している「青少年の性行動全国調査」の最新版調査の結果をレポートいただいた。報告をお願いしていた先生が急遽来られなくなったために代演いただいた日本性教育協会の中山事務局長にお礼を申し上げます。

◆パネル討論「若者は草食化などしていない!？」

上記の講演を受けて、大学生・大学院生5名(女性3名・男性2名)に登壇いただき、若者世代の生の声をお届けした。「全身脱毛に行き体毛の処理をしたら、誰とでもセックスすることができるようになった」「誰とでもセックスするのは、

断る理由がないから」「セックスはインスタ映えしない」など、平成生まれである大学生や大学院生の生の声は来場者にとって多くのインパクトをもたらしたようであった。

◆シンポジウム「男性への性教育から考えるすべての人の性の健康」

性の健康分野の研修会等のなかでまだまだフォーカスされづらい「男性」について取り上げた。各界の専門家からご発言をいただき、「男性に対してどのような発信＝(広義の)性教育を行えば、すべての人の性の健康が推進されるか」ということについて検討した。登壇者は内田洋介氏(泌尿器科医)、澁谷知美氏(東京経済大学・社会学者)、赤谷まりえ氏(編集ライター)で、各位の専門性が遺憾なく発揮されたセッションとなった。包茎に悩む男性の相談を端緒に、包茎の話や男性が社会の中で置かれた状況、男性の人間関係の結び方に関する課題など、様々な示唆を得られた時間となった。

◆スピーカーズコーナー「世界性の健康デー 10周年と、令和の性の健康」

僭越ながらお話をさせていただき、この10年の性の健康デーの取り組みを振り返ったほか、会場のみなさまとのディスカッションを通じて、これからの性の健康について考える時間となった。

今年も多くのみなさまのご来場を賜り、盛会のうちに会を終了することができた。日本性科学会様を始めとする各団体のご協賛・ご後援にも感謝し、報告としたい。

セックスカウンセリング研修会 (2019年6月2日) アンケート結果

早乙女 智 子

回答総数 会員12名／非会員11名

職業：医師4名／2名 看護師2名／2名
心理職2名／1名 教員2名／0名
その他3名／6名

研修会を知ったきっかけ

学会HP 4名／2名 学会ニュース8名／0名
その他 0名／9名

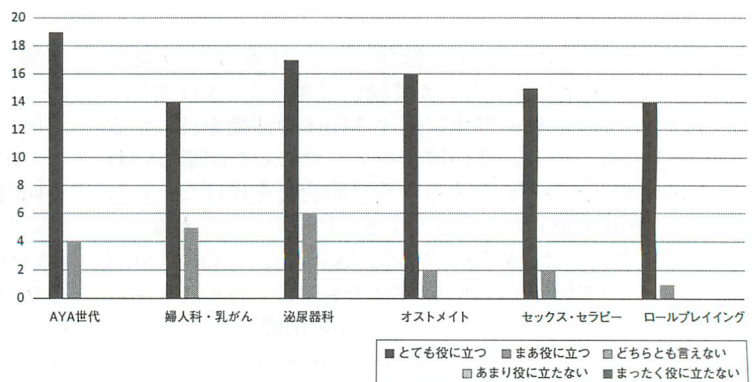
自由記載【会員】

- ロールプレイもがん患者などテーマに沿ったケースを取り上げて欲しい
- 講師のパワーポイントをテキストにして欲しい
- 分娩後のセックスレス、性欲低下、体の変化、夫との関係性などを取り上げて欲しい
- 不妊治療のセクシュアリティ
- DSDs の話題

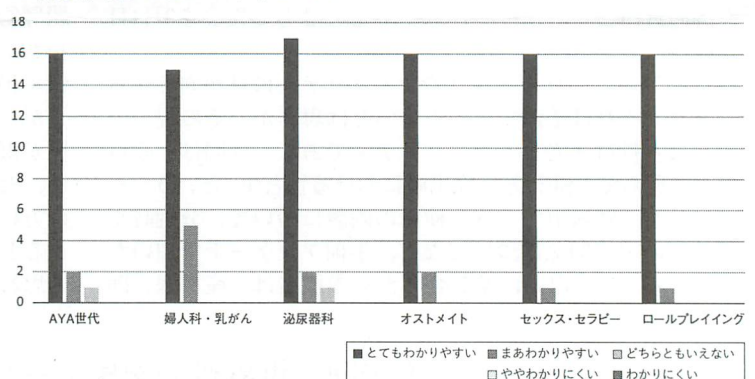
自由記載【非会員】

- 身体障がい者の性、知的障がい者のセックスカウンセリング
- セクシュアルマイノリティの悩みのケーススタディパワーポイントの撮影はいいのか？配布はしないのか
- 一般人からどのように性の相談を医療者につないでいいのか

● 講義内容は役に立ったか



● 講義内容はわかりやすかったか



身体に障害のある方のセックスカウンセリングの実施について

帝京平成大学看護学科 道 木 恭 子

この度、日本性科学会の諸先生方および事務局の方々のご指導、ご協力を頂き、身体障害のある方へのセックスカウンセリングを実施させていただくことになりました。

私はこれまで、障害のある方が性について悩みを抱えながら相談する場がない状況をみてきました。障害のある方は、性機能障害をとまなうことが多く、勃起、射精の問題、性行為中の尿便失禁、性的感覚の欠如、身体の変形など様々な悩みや不安を抱えています。そして挙児も重要な問題となります。

しかし、こうした悩みを相談するために医療機関を受診する人は殆どいません。その理由として、性に関して相談することへの抵抗感もありますが、性機能障害の検査や治療およびセックスカウンセリングを受けられる病院に関する情報不足があります。こうした現状から、性に関する正しい情報を提供すること、医療が介入すべき問題に対しては、適切な受診科につなげることが必要であると考えてきました。そして支援を実施するためには、安心して相談できる環境と時間が必要であることから、学会カウンセリングルームでの「障害者を対象としたセックスカウンセリング」を実施させていただくことになりました。この機会をいかし、身体に障害のある方々の性に関する悩みに対し、専門的な関わりを実践していきますので、どうかご指導の程宜しく願いいたします。

以下に概要を書かせていただきます。

○対象となる方

身体障害者手帳を有する方（脊髄障害、脳血管障害など）の相談を受けさせていただきます。精神障害の方の相談は受けておりません。相談はご本人・カップル、ご家族の方、代理人を問わず相談に応じます。

○相談場所 日本性科学会カウンセリングルーム

※カウンセリングルームまで来ていただくことが厳しい方は電話で対応します。電話相談でも予約の取り方、料金は同じです。

○相談時間 50分

○相談料金 5,000円

○相談日時 毎月第一日曜日 10時～14時

○主な相談内容

- ・性行為に関する相談
- ・挙児に関する相談
- ・月経・更年期などに関する相談

○相談内容に応じて、医療的な情報を提供し、必要に応じて、受診病院を紹介します。

以上です。また実施状況について報告させていただきます。